



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,702人
男子 3,292人
女子 3,410人
世帯数 1,943戸
(7年10月末現在)

大歓声 いい汗流して秋の一日

'95 竜丘市民運動会



決定的瞬間「ゴール前の大逆転」

◇ 竜丘秋のスポーツの祭典である恒例の竜丘市民運動会が、十月……
◇ …… 十日体育の日に、竜丘小学校にて行われました。当日は秋晴れ……
◇ …… の絶好のスポーツ日和に恵まれ、地区民延べ二千人の人々が集……
◇ …… い終日歓声が絶えることなく楽しい秋の一日となりました。

早朝の打ち上げ花火、伝統ともなった小学生の聖火リレーで、運動会の気運も高まり開会式。準備体操の後、いよいよ熱戦の火ぶたが切られました。

午前中は一般種目として、恒例のかけっこ、パン食い競争などが行われ、参加人数も多く子供達の元気一杯の走りが印象的でした。

マラソンは種目名を「走ってメダトウ」とかえて、一般から小学生まで六十三名が観客の前で抜きつ抜かれつ、デットヒートを展開し、又周回遅れになっても、一生懸命に走り全員が校庭七周を完了しました。

分館対抗種目では、各分館から選ばれた選手の皆さんは、分館の名譽と期待を担い各自明日の筋肉痛も恐れず、力一杯競技に取り組み序盤のメドレーリレーから桐林がトップをキープし他分館がそれを追う展開となりました。

昼食の時間には恒例の青少年クラブ勢揃い、明星学園の園生による明星の花など日頃の練習の成果を披露しました。

午後は保育園児による風船ひろいから始まり、大なわとびは飛ぶ選手と縄を廻す人と掛け声の人が、気持ち一つにしないとうまく飛ばせません。一度失敗して同じ人が何度もからんでしまったり、掛け声と縄のスピードが合わず悪戦苦闘している分館もあるなど、グラウンド内は、選手の緊張感と観客の笑い声が混り合



しい一時 運動会 特色の 一つのウ ルトラク イズIN 竜丘では 今年は何 題が易し かったの か、参加 者が賢か ったのか 中々人数 が絞ばら

んは、分館の名譽と期待を担い各自明日の筋肉痛も恐れず、力一杯競技に取り組み序盤のメドレーリレーから桐林がトップをキープし他分館がそれを追う展開となりました。

昼食の時間には恒例の青少年クラブ勢揃い、明星学園の園生による明星の花など日頃の練習の成果を披露しました。

午後は保育園児による風船ひろいから始まり、大なわとびは飛ぶ選手と縄を廻す人と掛け声の人が、気持ち一つにしないとうまく飛ばせません。一度失敗して同じ人が何度もからんでしまったり、掛け声と縄のスピードが合わず悪戦苦闘している分館もあるなど、グラウンド内は、選手の緊張感と観客の笑い声が混り合

んは、分館の名譽と期待を担い各自明日の筋肉痛も恐れず、力一杯競技に取り組み序盤のメドレーリレーから桐林がトップをキープし他分館がそれを追う展開となりました。

グループ紹介

見事な枝ぶり

上川路菊の会

上川路菊の会 以前は、「大菊、けんがい(塚平陸雄会長)による、飯田市中央公民館での作品展不大会が、十一月六日(十三日までの八日間)にわたり開催されました。

大きな鉢に、一見みごとな盆栽を思わせるような枝ぶり、その一つ一つに、いっぱい菊の花が咲く、「木付け」の丹精込めて育てられた力作が、十五鉢出品された会場は連日数多くの見学者が訪れ、好評のうちに開催されました。



菊をバックに ハイポーズ

今年、県、下山から木付けに取り組んでいる方々が、指導を受けに来た事をきっかけに、先日「名古屋城・岐阜公園」へ菊の見学会に合同で出かける等交流を深めています。

長寿社会を色濃く反映

竜丘地区敬老会

去る九月十五日小学校体育館に於いて、竜丘地区敬老会が開かれた。これは社会福祉協議会と公民館の主催によるもので、毎年「敬老の日」を機に行なわれています。

さて今年度は、昨今の長寿社会の流れを色濃く反映し、該当者(大正十年三月三十一日以前に出生された方)が、過去最高の五百八十三人をかぞえ、その中の二百余名が参加されました。

当日は、台風接近のニュースも流れ心中穏やかでないものの、秋晴のどかな日よりとなりました。

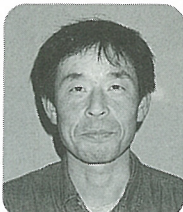
祝辞に続いての記念行事では、「豊かに生き抜く」生命の重み、心のふしぎと題し、瑠璃寺住職、滝本

慈真さんの講演が行なわれました。また今年度八十才を向える方に、お祝いの記念品が贈呈され祝宴へと進みま



八十才 おめでとう!! お元気で。

県公民館表彰



伊藤 恵一さん

去る九月七、八日丸子町で開催された、第四十三回長野県公民館大会において、平成七年度公民館活動推進功労者の表彰式があり、飯田市から二十二名が受賞しました。

竜丘地区からは、駄科の伊藤恵一さんが永年にわたる広報委員としての功績が認められ、慶びの受賞となりました。

伊藤さんは昭和五十九年から十年間広報委員として積極的に活動され、館報「たつおか」の編集、発行はもちろんです、縮刷版の刊行にも携わって来ました。

長い間の広報委員活動、大変ご苦労様でした。

ヤフコ

今年九月、沖繩で米軍兵による少女暴行事件が起きた。そのことは、今や地位協定や基地縮小という問題にまで大きくなってきている。

九月中旬に沖繩で生の声を聞く機会を得た。まだその頃マスコミは報道し始めた程度だった。

伊江島で基地反対運動を戦後からずっと続けている安和根昌鴻(あはこんしゅうこう)さんを訪ね、七〇%を占める基地を三〇%にまで削減して来た経過や島全部を取り戻せる話が米軍との間に成立していたのに日本返還となり、うやむやのうちに果されなかったことなどを伺った。

今では基地で働く住民や、土地を提供してお金をもらっている等、生活のために基地は必要なものとなっている。しかし、戦闘機や射撃訓練等でおびやかされたり、暴行事件等日常茶飯事で、今まで何人も人が泣き寝入りをしていく。心の奥では基地はあって欲しくないのだと言っている。でも反対できない。

五十年前に捨て石とされた沖繩は唯一の地上戦が行われたところ。今も土の下には何万ともいわれる犠牲者が眠っている。摩文仁の丘、平和公園では、慰霊碑の建立、遺骨収集が行われ、毎年戦没者慰霊祭が催されている。但し、戦争に貢献した人々が祭られている。本心に犠牲となった沖繩住民の慰霊碑「魂の塔」は、近くにありながら訪れる人も少なく寂しいものだった。

今、沖繩が立ち上がった。日本政府と米軍と戦っている。同じ日本人として私たちは見守るだけで良いのだろうか。

おごそかに竜丘地区 戦没者慰霊祭

戦後五十年の今年は、各地で様々な平和祈念事業が開かれましたが、去る十月二十日、開善寺尚和殿を会場に百二十人余りの関係者、遺族らが参列し、竜丘地区戦没者慰霊祭が開かれました。

この戦没者慰霊祭は、自治協議会、社協竜丘分会、竜丘遺族会が主催したもので、戦争で尊い命を亡くされた方々の霊に地区を挙げて追悼の誠を捧げ、永久平和への思いを新たにすため、毎年開催されているものです。

戦後五十年の今年は、特に節目の年ということと、来賓二十名、遺族の方約百名と、例年より多くの参列者が会場に集まりました。



戦後五十年に思いを込めて

午後二時、戦没者の霊に對し慰霊の黙禱を捧げた後、住職の読経、飯田市社会福祉協議会の窪田理事と飯田市遺族会の佐々木会長の祭詞、そして自治協議会長をはじめとし、各団体長と一般参列者の方々の焼香がおごそかに行われました。

戦後五十年の今年は、特に節目の年ということと、来賓二十名、遺族の方約百名と、例年より多くの参列者が会場に集まりました。

長姫センバツ優勝と 竜丘の二選手

孤帆 散人

戦後の荒廃から、やや明るさの見え始めた昭和二十九年春、飯田から長姫高校が甲子園へ選抜された。

戦前、飯田商業と言った所謂中学校当時、一度出場の記事があるから、初出場の冠はかぶられなかったが、飯田・下伊那からの甲子園出場は、ほとんど初出場に等しかったから、まさに「出場するのに意義がある」で、殆どの市民は初戦突破も期待していなかった程であった。

S君は副主将として参加した。竜丘中学の同級生で、

あり、家も近かったこともあって、身内の様に喜んで、その上に、S君の妹さんが同じ職場にいたので、社長の指示もあり、夕方から夜にかけて出来る出荷等の仕事は済ませ、高校野球の時間になると、その当時の数少ないテレビジョンのある店や、電気店の店頭で駆けつけ、わが事のように応援をした。

初戦は、こともあろうに古豪浪商であった。しかしこれを一対〇で破ると、高知商業、熊本工業など、なみいる強豪を倒したのだから、卒業後国家公務員となり、竜丘の住

ら、飯田・下伊那の人々の熱はいやがうでも上った。決勝戦も、高校野球には馴染みの、小倉高校であったが、これをM投手の踏ん張り、と、ナインの攻守により



優勝旗を先頭に行進する長姫ナイン

年の時点で二百六十三名の移民の内、百名以上が死亡または行方不明で、無事に帰還された方は百四十五名に過ぎませんでした。

今の日本の平和と繁栄はこれらの方々の尊い犠牲の上にあります。平和の大切さを後世に伝え、不戦のとしびを絶やさないことを改めて誓うことが必要ではないでしょうか。

なお、開善寺住職のご厚意により、今回の慰霊祭を心にくむための五十周年記念品として、住職直筆の色紙が参列者に配られました。

竜丘の文化を 広めた農業祭

去る十一月十一、十二日と上郷の地場産業センターで、飯田市農業祭が盛大に行なわれました。当竜丘地区からは地区紹介ということとで、各区の日頃の活動や祭の様子が展示発表されました。

展示物の中で一番目を引いたのは竜丘地区鳥獣図作成委員会の方々が作られた竜丘が立地地図で表されたもので、古墳の多さにあらためておどろきました。それぞれの区の様子を知っていたかよ機会になつたようです。



ワースト。これが竜丘

去る八月二十七日、飯田市公民館主催の「平成七年度飯田市女性ソフトボール大会」が桐林総合運動場で開催され、竜丘地区など十チームが参加し、熱戦を繰り広げた。

みごと準優勝！ 健闘の女子ソフト

竜丘チームは、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、二回戦で龍江を五―一、準決勝では川路に四―四の同点から抽選勝ちをして決勝まで駒を進めた。しかし伊賀良との決勝戦は善戦及ばず惜しくも優勝を逃した。

区の活動紹介としては、地域マネージメントプランとして行なわれている上川路の「ぼたんの里作り」駄科の「北平つつじの里作り」が写真を中心に展示されていました。又祭りのコーナーでは、長野原の、お日待祭り、駄科の甘酒まつりの紹介が行われており、前日から仕込んだというおいしい甘酒のサービスがあり好評でした。

展示物としては桐林、上川路より人形浄瑠璃の人形、駄科から祭で使う獅子頭、時又からは初午の資料などが出品されていました。又、上川路町並常会のみなさんたちによる餅菓子の即売が行われ、元気のいい声があふいていました。

毎晩十一時に時又商店街に鳴り響いていた鐘の音が聞こえなくなりました。それは、十月十三日の総会で、出席者ほぼ全員の見により、明治平成へと街を守り続けた夜警団が、解散したからです。

ごころうさまでした 時又夜警団

また、昔とは違い、火の扱いが、「かまど・いろり」から「ガス・電気」といった便利で安全なものになったことも考慮されました。夜警団は、地区内で起きた火災をきつかけに、「自分達の街は自分たちで守ろう」と、明治四十二年に発足し当時は、夜十二時、二時、四時の一晩に三回鐘を鳴らしながらの巡回を始めました。

この地域は隣家との間隔がない程の住宅密集地で、特に防火意識は特別です。平成二年には、この取り



おめでとう!! 準優勝

平成七年度秋の火災予防運動が十一月九日から十五日迄実施されました。今年度は阪神・淡路大震災の経緯を基に、「災害に備えて日頃の火の用心」を標語に掲げ、我々消防団をはじめ自主防災協議会、防火防犯委員会等各種団体の方々の協力を得て防火意識の高揚を図ってまいりたいと思います。

戸市長田地区の様な状況が、発生するかわかりません。いざという時あわてない為には日頃からの心掛けが大切です。地区の住民一人一人を絶対出さない為の防火の用心」を標語に掲げ、我々消防団をはじめ自主防災協議会、防火防犯委員会等各種団体の方々の協力を得て防火意識の高揚を図ってまいりたいと思います。



分団長 小栗 秀 樹

「災害に備えて
日頃の火の用心」
分団長 小栗 秀 樹

七つのポイントをあげてみていただきたいと思います。

- 一、寝たばこや、たばこの投げ捨てをしない。
- 一、子供には、マッチやライターで遊ばせない。
- 一、風の強い日はたき火をしない。
- 一、天ぷらを揚げる時は、その場を離れない。
- 一、家の周囲に燃え易いものを置かない。
- 一、風呂の空たきをしない。
- 一、ストーブ等には燃え易いものを近づけない。

以上を守って「自分の財産は自分で守る」自覚を住民一人一人にもって頂きたいと思っております。